

JP44029659Y1

Patent number: JP44029659Y1
Publication date: 1969-12-08
Inventor:
Applicant:
Classification:
- international: *F16L19/08; F16L19/00; (IPC1-7): F16L19/08*
- european:
Application number: JP19660021037U 19660310
Priority number(s): JP19660021037U 19660310

Report a data error here

Abstract not available for JP44029659Y1

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

Best available copy

⑩実用新案公報

④公告 昭和44年(1969)12月8日

(全3頁)

1

④被覆管用接手

④実 願 昭41-21037
④出 願 昭41(1966)3月10日
④考 案 者 石井貞夫
横浜市保土ヶ谷区柏町19の14
④出 願 人 株式会社三興
東京都品川区東大井2の27の1
0
代 表 者 井本八郎
代 理 人 弁理士 井上重三

図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示す。第1図はダブル
リングを用いた場合、接続された状態の半切欠せ
る側面図、第2図、第3図及び第4図はダブルリ
ングを用いた場合、夫々半切欠せる他例の側面図
第5図は第1図の接手の締付状態の拡大断面図、
第6図は従来の接手の半切欠せる側面図、第7図
及び第8図はシングルリングを用いた場合、夫々
半切欠せる側面図、第9図は第7図のシングルリ
ングを用いた場合の締付状態の拡大断面図である
考案の詳細な説明

本考案は金属管を樹脂被覆により被覆せる被覆
管を接続する際、金属管が外気などに直接さらさ
れず保護されるようにしたものである。

従来の接手もこれらを解決するため種々工夫さ
れ製造されている。しかしながら接続に手間がか
かり、高価であることや、簡便であつても不完全
であつた。本考案は接続が簡便で手間がかからず
安価であり、誘覆管を接続する接手として理想的
接手と云える。

次に図面について本考案を説明する。第1図及
び第5図において、接手本体1と袋ナット2はね
じ6で螺合し、背合せるリング3とリング4を締
付ける。接手本体1にはテーパ8が、又袋ナット
2にはテーパ10が形成されている。金属管5
は樹脂被覆8により被覆されていて、この被覆管
7を流体使用機器(図示せず)に接続する場合に

2

内径の小なる外側面が甲丸形のリング3を金属管
5に嵌め込み、又内径の大なる外側面が甲丸形の
リング4を樹脂被覆8に嵌め込み、これらのリン
グの内側端面を互いに接合して、第5図に示す如
くテーパ8と10とを甲丸形のリング3と4の
外側面に夫々当て袋ナット2を右へ回し締付け
ると、リング3は金属管5に、リング4は樹脂被覆
8に喰込み機器に確実に接続される。

従来の接手は第6図の如く金属管5'が本体1
'に確実に接続されても被覆8'と接手部(図示
の場合は袋ナット2')との間が離れて、金属管
5'が露出したのでこの露出部分が外気などに直
接さらされて腐蝕、電気導通その他の障害事故を
発生した。

第2図は外周面がフランジ形の内径の小なる外
側面を持つリング3aと内径の大なる外側面が甲
丸形のリング4aを、これらのリングの内側端面
を互いに接合して、リング3aを金属管5に、リ
ング4aを樹脂被覆8に夫々嵌め込んだ場合であ
る。

第3図は内径の大なる楔形リング3bを金属管
5に、又内径の小なる楔形リング4bを樹脂被覆
8に夫々嵌め込んだ場合である。

第4図は金属管5に甲丸形のリング3cを嵌め
込み、又樹脂被覆8の端面と外面に楔形リング4
cを嵌め込み、この楔形リングの左側傾斜内面を
リング3cの右側甲丸部に接合させ、本体1に袋
ナット2を右回して締付けるとリング3cと4c
の内側端部が金属管5と樹脂被覆8に喰込み密着
する。

第7図は、リング3を1個用いて第1図につき
説明したと同じ作用効果を有するようにしたもの
である。即ちリング3は外周面が甲丸形に形成さ
れており、内周面は左半部が金属管5に嵌め込ま
れる小内径孔を形成しており、右半部は樹脂被覆
8に嵌め込まれる大内径孔を形成している。

第8図に示すように本体1のテーパ8と袋ナ
ット2のテーパ10にてリング3の両端部を挟
圧し第9図破線の位置より実線の位置に加圧変形

3

4

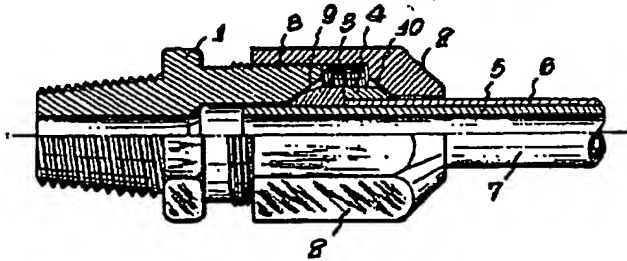
する。するとリング3の両端部は突線にて示す如く変形して金属管5及び樹脂被覆に深く喰込み一体化される。

実用新案登録請求の範囲

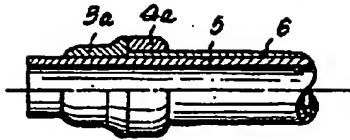
本文に詳記するように一侧を金属管に嵌め込む小内径とし、他側を樹脂被覆に嵌め込む大内径と

したリングを設け、該リングを互いに対向する方向に拡がるテーパを有した継手本体と袋ナットとそのテーパ間に介在してなり、上記袋ナットを継手本体にねじ付けてリングの両端を金属管と樹脂被覆に喰込ませて本体、袋ナット及びリングを一体に構成するようにした被覆管用接手。

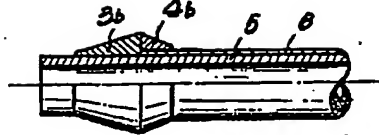
第1図



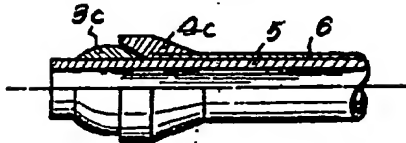
第2図



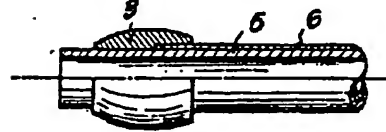
第3図



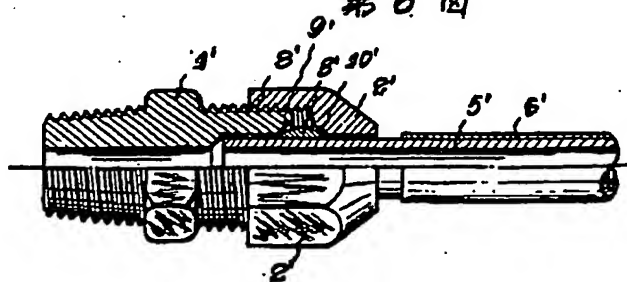
第4図



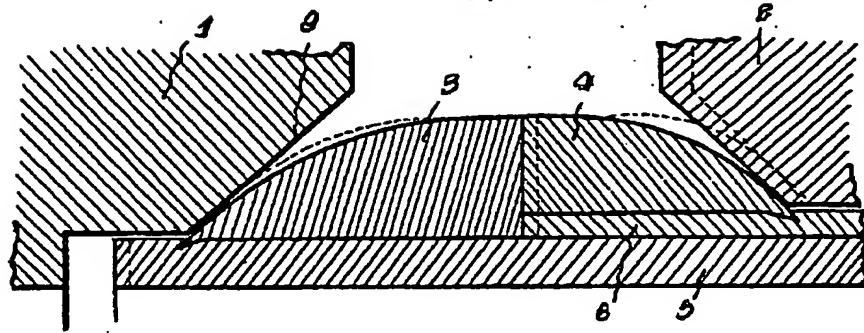
第5図



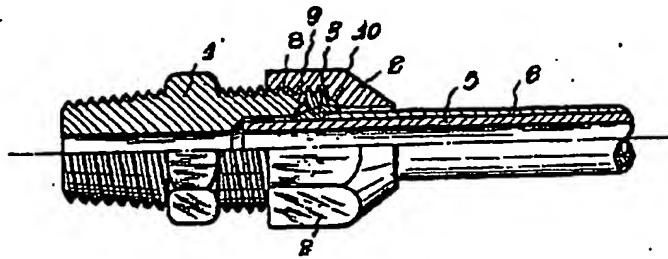
第6図



第 5 図



第 7 図



第 9 図

